

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.269

2015年10月

名古屋大学レクチャー2015を開催



目次

●ニュース

名古屋大学レクチャー2015を開催 3

UN Women と第23回世界スカウトジャンボリーに参加 4

若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーを開催 4

女性教員が有村内閣府特命担当大臣と懇談 5

名古屋大学特別講演会 5

名古屋大学スーパーコンピュータシステム更新披露式を開催 6

●知の未来へ

元素の個性を生かして、光る分子を創る 7

深澤 愛子（大学院理学研究科准教授）

●知の先端

リチャージブル燃料電池バッテリー 8

日比野 高士（大学院環境学研究科教授）

●学生の元気

第69回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会 10

●部局ニュース

テクノ・フェア名大2015を開催 11

サマースクール「アジアの法と社会2015」を開催 12

夏休み体験学習「粘土鉱物の謎に迫る」を開催 12

高校生防災セミナーを開催 13

名古屋 COI 拠点関連行事を開催 13

第46回地球教室「鍾乳洞の正体をあばこう！」を開催 14

ミクロの探検隊®を開催 14

第113回防災アカデミー 15

●受賞者一覧 16

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成27年8月16日～9月15日 20

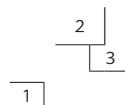
●イベントカレンダー 23

●ちょっと名大史

東山キャンパスが「千種区不老町」になった日 28

名古屋大学レクチャー2015を開催





- 1 開会あいさつをする総長
- 2 表彰盾授与式の様子
- 3 講演する天野教授

名古屋大学レクチャー2015「2014年ノーベル物理学賞受賞記念」が、9月6日(日)、本学と中日新聞社の共催により、豊田講堂において開催されました。

本レクチャーは、本学が主催する最も重要な講演会であり、分野を問わず、世界的に著名な研究者の講演を広く一般市民の方々に公開し、現代世界の最高の「知」に触れてもらうために行われるものです。講演者には、本学で最も荣誉ある「名古屋大学レクチャー」の称号が授与されます。

今回のレクチャーは、2014年ノーベル物理学賞の荣誉にも浴されている、高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色発光ダイオード(LED)の発明者の一人、天野 浩工学研究科教授でした。天野教授は、師匠である赤崎 勇本学特別教授の卓越した指導の下、長く厳しい挑戦を越えて、窒化ガリウムの結晶化に成功しました。また、赤崎特別教授と共に、「20世紀には実現不可能」だとされていた青色LEDの開発を成し遂げました。LEDは省エネ効果が高く、しかも寿命も長いことから、ディスプレイや照明など、様々な分野で使われています。また、小規模の電源でも光源として機能するため、この発明はアフリカや中央アジア等の地域の15億人の人々に光を

もたらしました。青色LEDは、人間社会の在り方を根底から変える技術の一つとして、エジソンの電球以来の発明だと言われています。

当日は、松尾総長のあいさつで幕をあげ、続いて、小出宣昭中日新聞社社長より、共催者として、「ノーベル賞は平和が生み出すものであり、今回のレクチャーは、戦後70年を象徴しているものだ」とのあいさつがありました。

その後、赤崎特別教授から、「青色発光素子はいかに創られたか」と題して特別公演が行われ、青色発光素子の開発にまつわる貴重な体験秘話について熱く解説がされました。それに続く贈呈式では、総長から天野教授に「聖人が現れ、平和で学問が尊重される世の中になる前兆」とされる「麒麟」をモチーフにデザインされたレクチャーシップの表彰楯が贈呈されました。なお、赤崎特別教授は、2012年に名古屋大学レクチャーシップを授与されています。

続いて、天野教授から、「世界を照らすLED」と題し、自分の学生時代



を振り返りながら、夢中になって装置を自ら組み上げ、窒化ガリウムの結晶化の困難と成功するまでの長い道のりについてわかりやすく講演が行われました。講演後に、ステージ上でレクチャーに参加していた高校生たちの質問にも答え、「夢中になれることをいろいろ探し、チャレンジしてほしい。いつかきっと、自分にしかできないことが見つかる」と若い世代にエールを送りました。

今回の名大レクチャーは、本学教職員、学生、一般市民、中高生の方々など約1,200名の参加があり、熱気溢れる講演会となりました。参加者からは、「研究に対する熱意に大変感銘を受けた」等の感想が多数寄せられ、大変有意義なものとなりました。

UN Womenと第23回世界スカウトジャンボリーに参加

本学は、7月29日(水)から8月7日(金)まで、山口県きらら浜で開催された第23回世界スカウトジャンボリーに、UN Womenと共同参加しました。この催しは、4年に1度開かれる世界スカウト機構主催の大会で、世界155の国と地域から約3万2千人の青少年が参加しました。本学はUN Womenが展開するHeForSheキャンペーンの「Impact



ジェンダー平等ワークショップの様子

10x10x10」プログラムで世界の10大学の1校に選出されており、今回の共同企画が実現しました。

本学はUN Womenと共同で「ジェンダー平等」ブースを設置し、男女共同参画室及び博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」の教職員6名がUN Women本部スタッフとともに、ジェンダー平等実現のために男性の意識変革と積極的な行動を呼びかけるHeForSheキャンペーンの推進、女性リーダー育成プログラムの紹介、そしてジェンダー平等に関するワークショップを行いました。

2週間のジャンボリー期間中、世界50カ国から約1,800名のスカウトがUN Women・本学のブースを訪れ、735名の男性スカウトがHeForSheコミットメントに署名し、ジェンダー平等を実現するために積極的に行動することを誓いました。本学がUN Womenと世界スカウトジャンボリーに参加してHeForSheキャンペーンを推進した様子は、UN Womenにより動画で配信されたほか、国連事務総長特使(ユース担当)にツイートされるなど、世界の若者に向けたジェンダー平等に関する啓発のため、世界中に発信されています。HeForShe推進への貢献に対し、ムランボースタカUN Women事務局長から松尾総長に感謝状が送られました。

若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーを開催

毎年恒例の若手女性研究者サイエンスフォーラム・女子中高生理系進学推進セミナーが、オープンキャンパス2015開催期間中の、8月10日(月)豊田講堂ギャラリー及び第1会議室において同時開催されました。同イベントは、中川書子環境学研究科准教授及び宮田喜久子工学研究科研究員の2名による特別講演で始まり、続いて、女子中高生



ポスターセッションの様子

に対してポスター発表の聴き方、見方のポイントを伝えるポスターガイダンスが行われた後、学内の若手研究者29名(女性24名、男性5名)によるポスターセッションが行われました。今年度は、理工農学系で女性研究者がとりわけ少ない分野において、若手男性研究者の参加も募り、5名が参加しました。同時開催のセミナーには、愛知、岐阜、三重の東海3県を中心に、女子中高生とその保護者や教員、その他多くの来場があり、ポスターセッションに参加し、総長賞選出にあたり投票にも参加しました。

最後に、ポスターセッションに対する表彰のための投票が、発表者を除く、女子中高生や、理系部局の研究科長等の参加者によって行われ、得票数により、生命農学研究科博士課程後期課程2年上原奏子さん、理学研究科博士課程後期課程2年松崎瑞季さん、工学研究科附属プラズマナノ工学研究センター田嶋聡美特任准教授、の3名に松尾総長から総長賞が授与されました。

この催しは、若手女性研究者の研究発表・交流を目的とし、同時に理系分野に興味のある女子中高生へのエンカレッジの場として、理系分野で活躍中の女性研究者の話を直接聴くことができる機会となっています。

女性教員が有村内閣府特命担当大臣と懇談

有村治子内閣府特命担当大臣（男女共同参画）らが来学し、政府が推進する「女性活躍加速のための重点方針2015」の柱の一つとして位置付けた「理工系の女性人材育成」に関し、本学女性教員との懇談会が、8月20日（木）に開催されました。

懇談会では、國枝理事の進行により、理工系の女性教員



懇談会後の記念撮影

5名（東村博子副理事（生命農学研究科教授）、森 郁恵理学研究科教授、佐々木成江理学研究科准教授、田嶋聡美工学研究科附属プラズマナノ工学研究センター特任准教授、中川書子環境学研究科准教授）と、有村大臣、堀井奈津子愛知県副知事、愛知県の男女共同参画担当者、並びに神田憲次衆議院議員らとの間で意見交換が行われました。理系女性研究者の活躍により科学技術のさらなる発展が期待されること、女性研究者が安心して活躍できるための組織や社会のあり方、工学系への女性研究者の増員の必要性、さらに、女性の活躍で愛知を活性化し、これを全国に発信することの意義も話し合われました。本学が、国連機関 UN Women の HeForShe キャンペーンにより女性の活躍を推進する世界のチャンピオン10大学として国内で唯一選ばれた大学であり、今後の展開が大いに期待されていることを認識でき、本懇談は本学の男女共同参画推進にとって非常に有意義なものとなりました。

また、懇談会に先立ち、有村大臣御一行は学内学童保育施設を訪れ、子ども達の輪の中に入って談笑するなど、大いに盛り上がりました。同施設では、歓迎のあいさつ、学童による手作りのプレゼントが大臣へ手渡され、とても和やかな雰囲気での視察は終了しました。

名古屋大学特別講演会

名古屋大学スーパーコンピュータシステム更新披露式を開催

名古屋大学スーパーコンピュータシステム更新披露式が、9月11日(金)、情報基盤センターにおいて開催されました。

伊藤情報基盤センター長より、今回更新したスーパーコンピュータ FX100は、国内では理化学研究所のスーパーコンピュータ「京」に次ぐ性能であり、大学関係ではトッ



テープカットの様子(左から伊藤センター長、松下理事、総長、松本参事官補佐、山本会長)

プの性能を有すること及びこれら計算能力について、民間企業への利用促進を進めて行く旨の説明があった後、松尾総長のあいさつ、松本昌三文部科学省学術基盤整備室参事官補佐から来賓祝辞が述べられ、今回更新されたスーパーコンピュータ FX100の前でテープカットを行いました。

式典の後、荻野正雄同センター大規模計算支援環境研究部門准教授から導入システムの概要説明及び本学におけるスーパーコンピュータシステムの導入の歴史について説明があり、次いで、山本正己富士通株式会社代表取締役会長からのあいさつ、TC ソリューション事業本部 TC フロントティアセンターマネージャである金澤宏幸氏によるスーパーコンピュータシステムの現状と将来展望の講演が行われ、続いて、スーパーコンピュータシステム (CX400、FX100、可視化システム) の見学会も行われました。

システムの詳細な構成や性能についての質問が見学者から寄せられ、今回導入されたシステムへの期待の高さが伺われる内容となりました。

重要文化財馬場家住宅研究センター公開講座を開催

重要文化財馬場家住宅研究センター平成27年度公開講座「開智学校の魅力」が、9月12日(土)、松本市立博物館分館・重要文化財旧開智学校校舎において開催されました。この講座は、遺産に関する研究を進める本センターが、地域貢献の一環として毎年、松本市で開催しているものです。今回は、学都松本を象徴する開智学校に焦点を当て、開智学



旧開智学校校舎での見学の様子

校が持っている無形・有形の遺産を再認識する講座としました。

当日は、旧開智学校校舎の講堂において、まず、吉川卓治同センター教授による講演「開智学校における防災教育のあゆみ」と西澤泰彦副センター長による講演「擬洋風建築としての開智学校校舎」が行われました。その後、実際に建物を見学しながら、最後にまとめ作業と成果発表を行いました。

当日は天候に恵まれ、建物外観の見学では、青空に映える校舎を参加者一同が堪能しました。参加者の中には開智学校校舎で学んだ卒業生もおり、半世紀以上前の光景を思い出しながら校舎の魅力を確認していました。参加者からは「改めて開智学校のすばらしさを認識しました」といった感想が寄せられました。

また、これに合わせて8月29日(土)から9月23日(水)まで、同校舎と重要文化財馬場家住宅において、本センターの研究成果を「遺産の魅力-最近の研究成果から」と題するパネル展示で紹介しました。馬場家所蔵の古文書の解読や旧開智学校校舎と馬場家住宅の建物としての魅力を伝える展示としました。

元素の個性を生かして、光る分子を創る

大学院理学研究科准教授
深澤 愛子

のような考えのもと、15族元素リンの特徴を生かした分子設計により、新たな蛍光分子の開発に取り組んでいます。独自の反応開発をもとに、縮環構造をもつ様々な新規リン化合物の合成を達成し、これらが比較的長波長領域に極めて強い蛍光を示すことや、電子受容性に富むといったユニークな特性をもつことを明らかにしました (図1 *Org. Lett.* **2008**, *10*, 913; *Angew. Chem. Int. Ed.* **2008**, *47*, 5582; *Chem. Asian J.* **2009**, *4*, 1729; *Angew. Chem. Int. Ed.* **2011**, *50*, 12094 など)。以上で得られた知見をもとに、リンを含むπ電子系に電子供与性のトリフェニルアミン部位を導入することで、周囲の極性を検知できる蛍光プローブ Ph-Bphox を開発しました (図2)。この蛍光分子は、極性が高い環境で著しく消光する従来型の蛍光プローブと異なり幅広い極性において強い発光を維持できることから、時々刻々と移り変わる細胞内の極性変化を可視化することができます (*Angew. Chem. Int. Ed.* **2015**, *54*, 4539)。また、この分子骨格をさらに作り込むことで、超解像蛍光イメージングに最適な新分子もできつつあります。可視化技術を先導しうる革新的蛍光分子の開発に向け、今後もさらに研究を展開していきます。

蛍光イメージングは、非侵襲的に生命現象を可視化できることから、生物学研究に不可欠な基盤技術です。その主役は蛍光タンパク質ですが、サイズが大きいがゆえに小さな生物活性分子のはたらきを妨げてしまうことや、タンパク質以外の物質を標識することが困難であるという欠点をもつため、相補的なツールとして蛍光性の有機化合物が広く用いられており、現在多くの蛍光色素がイメージング用試薬として市販されています。ところが、現在入手可能な蛍光プローブのほとんどは、フルオレセイン、ローダミン、シアニン色素などの古典的な蛍光色素を基盤にして、これらに様々な構造修飾を施すことで可能な限り性能を高めたものです。これに対し、私達のグループでは、従来の蛍光色素では達成できない特性を実現することを目指し、蛍光分子の開発研究をおこなっています。

特異な蛍光特性をもつ新分子をデザインするために私たちが特に注目しているのが、周期表に存在する多様な元素です。C, H, O, N を中心とする有機化合物に対してこれらの元素を組み込むことで、従来の有機化合物では実現困難な特徴的な電子構造をもつ分子をつくることができます。こ

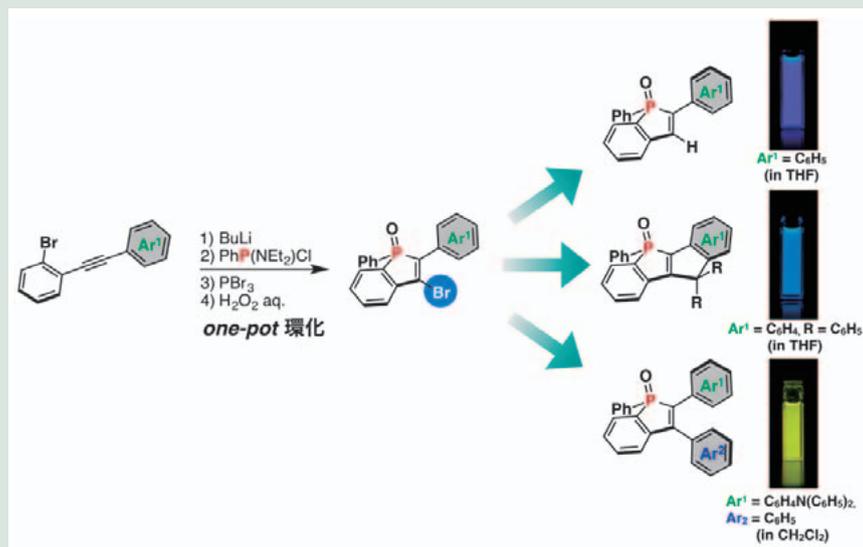


図1 独自に開発した環化反応を鍵とする環状有機リン化合物(ベンゾホスホルオキシド)の合成と、これらの溶液中での蛍光発光の様子(365 nm 光照射下)。

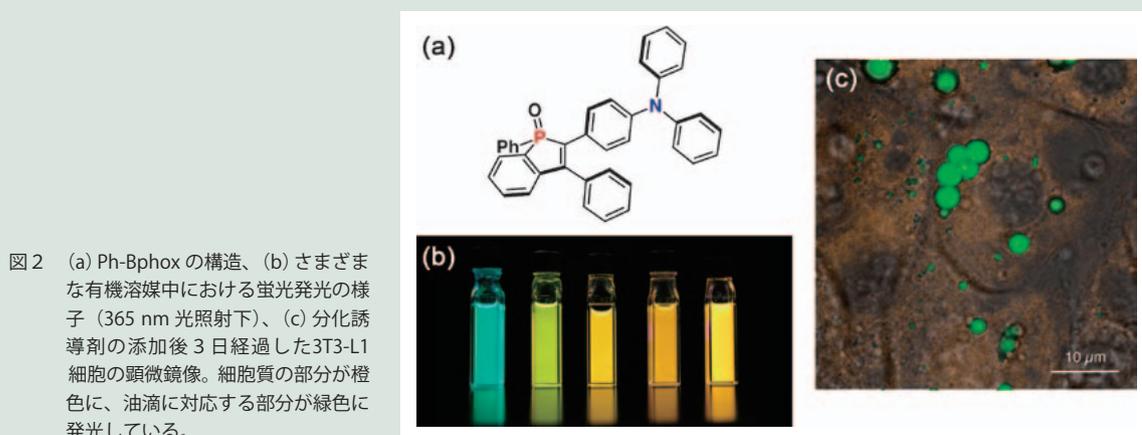


図2 (a) Ph-Bphox の構造、(b) さまざまな有機溶媒中における蛍光発光の様子 (365 nm 光照射下)、(c) 分化誘導剤の添加後 3 日経過した 3T3-L1 細胞の顕微鏡像。細胞質の部分が橙色に、油滴に対応する部分が緑色に発光している。

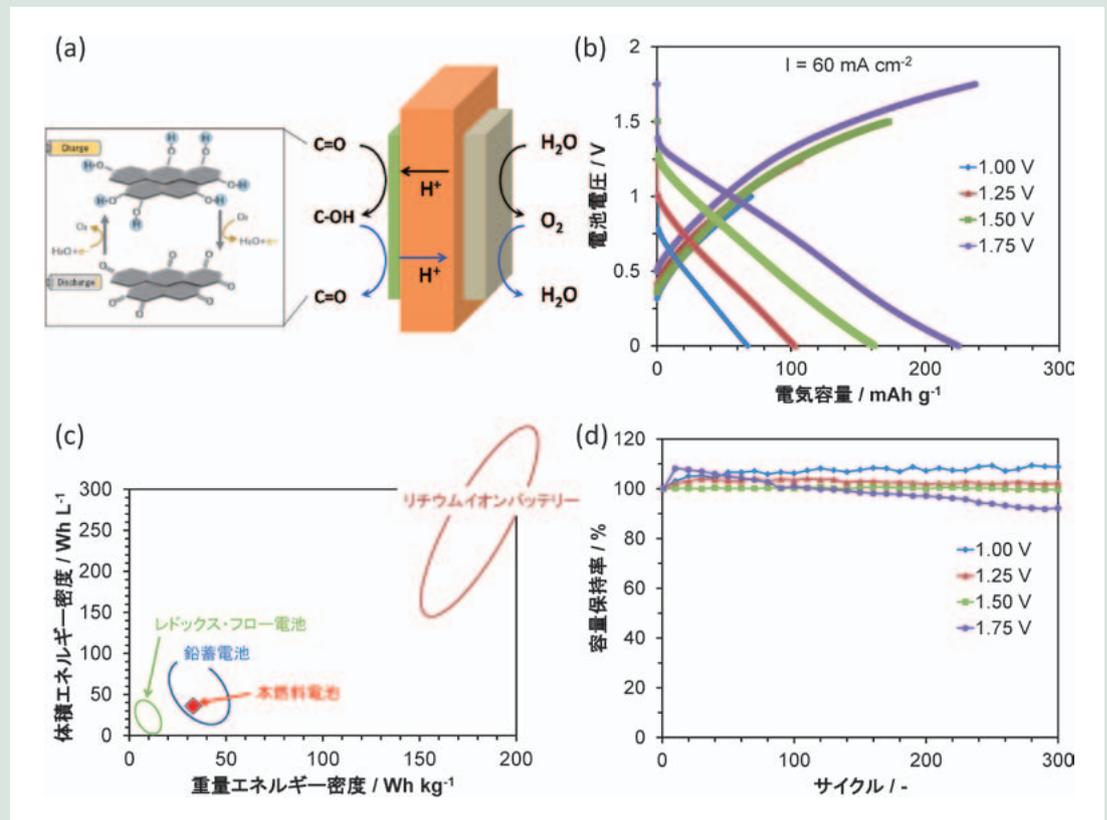
リチャージブル燃料電池バッテリー

日比野 高士 大学院環境学研究科教授

再生可能エネルギーをサポートする蓄電技術

太陽光と風力発電は、①天候、季節、日照時間によって発電量が大きく変動する、②休日など需要の少ない時期に余剰電力が発生する、③電力の安定供給確保のために買い取りが拒否される場合がある、といった難点があります。そのために、再生可能エネルギーによる発電設備には余剰電力

制御のための電力貯蔵が推奨され、規模によっては補助金が支給されます。住宅用太陽光発電ではリチウムバッテリーの使用が一般的ですが、中規模な地産地消型や大規模な集合型発電では高価なリチウム以外の二次電池、あるいは水電解による水素利用が検討されています。電力貯蔵用二次電池としてはレドックス・フロー電池（電圧1.1-



リチャージブル燃料電池バッテリー：(a) 充放電原理図；(b) 充放電曲線@60 mA cm⁻²；(c) 最大重量・体積エネルギー密度；(d) サイクル特性。いずれも作動温度は75℃。

1.5V)、ナトリウム-硫黄電池（電圧2.0V）や鉛蓄電池（電圧2.1V）がすでに実用化されています。これに対して、電力貯蔵用水電解・水素利用とは余剰電力で水を電解し、出力制御明けに貯蔵した水素を使って発電するシステム（電圧約1V）です。（貯蔵した水素を燃料電池車に供給するプロジェクトもありますが、水素貯蔵・輸送及びステーション等のインフラを整備する必要があります。）どの貯蔵法を選択するかは単位重量・体積当たりのエネルギー密度（Wh kg⁻¹・Wh L⁻¹）で決まり、同じ性能なら重量が軽いもの、体積が小さいものが有利になります。この観点からすれば、電池の活物質や燃料が循環するタイプは貯蔵タンクと輸送ライン、さらに循環ポンプが余分に必要となる分、蓄電器としては不利になります。

水素貯蔵・電池一体型燃料電池

リチャージブル燃料電池は通常、電池部と水素貯蔵部が分離した構造を持っていますが、我々は電池の電極自体が水素貯蔵媒体を兼用する一体型電源として電池、特に電極材料の設計を試みました。この設計のキーとなる技術は水素を燃料電池作動条件（室温-80℃）で貯蔵・放出でき、かつこれらの過程で余分なエネルギーを必要としない点ですが、従来水素貯蔵媒体ではそのような要求が満たされていませんでした。今回、この課題を打開するための手段として、マイクロポラスカーボン電極表面にカルボニル基を高密度で官能基化し、これらの可逆的なレドックス特性を水素の吸脱着に活用することを考案しました： $C=O + H^+ + e^- \rightleftharpoons C-OH$ 。この反応の酸化還元電位は構造敏感性が強く、カルボニル基がカーボンのどの位置に付くかによって+0.5V-0.5V（対水

素電極）と幅広い値を持ちます。この電極を燃料極、酸化ルテニウムを空気極、無機リン酸化合物を電解質膜に使用したバッテリーは、例えば作動温度75℃、充電電圧1.75Vの条件で、1.5Vの開回路電圧、220mAh g⁻¹@60mA cm⁻²の電気容量、最大33Wh kg⁻¹の重量エネルギー密度、最大36Wh L⁻¹の体積エネルギー密度を示し、これはリチウムイオンバッテリーには劣りますが、鉛蓄電池と同レベル、レドックス・フロー電池に勝る性能でした。また、充放電サイクルを300回繰り返しても電気容量が92%以上保持されることを確認しています。

今後の展望

上記バッテリーでは燃料極の水素吸脱着能に基づき充放電を行いました。水素の代わりにバナジウムイオン（Ⅲ）/バナジウムイオン（Ⅱ）やスズイオン（Ⅱ）/金属スズのレドックス反応を利用してもリチャージブル燃料電池を構成できます。これら燃料電池の特徴として、酸化還元電位が-0.2V（対水素電極）と固定されているため、電池放電時の電圧がその付近でほぼ一定となり、バッテリーとしての使い勝手が良くなります。また、スズ電池の場合には、水素やバナジウム電池と比較して、充放電に関与する電子数が二倍（二電子反応）になりますので、バッテリーの大容量化が期待できます。

1991年名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。名古屋大学工学部助手、(独)産業技術総合研究所主任研究員を経て、2004年より名古屋大学大学院環境学研究科教授。専門分野は固体イオニクス（イオン伝導性物質・高活性電極の設計と応用：燃料電池、バッテリー、キャパシタ、センサ、電解リアクタ等）。助手の頃から今に至るまで、授業、会議、出張、論文執筆以外は毎日、ボスドク並みに実験している。

ひびの たかし



第69回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会

第69回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会（名阪戦）が、主に5月から7月の土・日曜日に名古屋大学を当番校として開催されました。今年度は男子32種目、女子14種目を実施種目とし、名古屋大学の運動施設を主な会場として熱戦が繰り広げられ、両校の学生は本大会を通して互いに競技のレベルを高め合うとともに交流を深めています。

大会は9月に最終種目を終え、男子が15勝15敗1分け、女子が7勝6敗、総合成績では22勝21敗

1分けで、接戦の末、本学の勝利となりました。

今大会の結果で、本学の大会通算成績は、男子が21勝43敗5分け、女子が22勝35敗7分けとなりました（総合成績の制度が導入された第20回から今回までの総合通算成績は、本学の19勝28敗3分け）。

なお、来年度の名阪戦は、大阪大学が当番校となり開催される予定です。

第69回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会対戦結果表

種目	対戦結果		種目	対戦結果		種目	対戦結果	
	名大	阪大		名大	阪大		名大	阪大
アーチェリー	×	○	漕艇	×	○	アーチェリー	×	○
アイスホッケー	○	×	ソフトテニス	○	×	弓道	×	○
アメリカンフットボール	○	×	ソフトボール	雨天中止		剣道	○	×
空手道	○	×	体操	○	×	硬式テニス	○	×
弓道	○	×	卓球	×	○	漕艇	○	×
剣道	×	○	バスケットボール	○	×	ソフトテニス	○	×
航空	○	×	バドミントン	×	○	体操	実施なし	
硬式テニス	○	×	バレーボール	×	○	卓球	×	○
硬式野球	○	×	ハンドボール	×	○	バスケットボール	×	○
ゴルフ	○	×	フィギュアスケート	×	○	バドミントン	×	○
サッカー	×	○	ライフル射撃	×	○	バレーボール	○	×
自動車競技	○	×	ラグビー	×	○	フィギュアスケート	○	×
柔道	×	○	ラクロス	×	○	ラクロス	×	○
準硬式野球	○	×	陸上競技	×	○	陸上競技	×	○
少林寺拳法	×	○	相撲	○	×	女子成績	7勝	6勝
水泳	引き分け		男子成績	15勝	15勝	総合成績	22勝	21勝
スキー	○	×						

(引き分け1)



アメリカンフットボール部



女子バレーボール部



ハンドボール部



女子ラクロス部

テクノ・フェア名大2015を開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科は、9月4日(金)、豊田講堂及びシンポジオンホールにおいて、大学院医学系研究科、大学院環境学研究科、大学院情報科学研究科、大学院創薬科学研究科、エコトピア科学研究所、グリーンモビリティ連携研究センター、シンクロトン光研究センター、減災連携研究センター、ナショナルコンポジットセンター、未来社会創造機構、予防早期医療創成センター、学術研究・産学官連携推進本部との共催で、「テクノ・フェア名大2015-名大発・技術移転の萌芽-」を開催しました。

テクノ・フェア名大は、本学研究者による研究成果及びシーズ(種)を、ブース展示、研究室見学、講演会等により情報発信することにより、産業界や地域社会との密接な交流を図ることを目的に、平成11年から実施しています。

当日は豊田講堂ホールにおいて、新美工学研究科長による主催者あいさつの後、学術研究・産学官連携推進本部長である財満副総長及び竹中謙正経済産業省産業技術環境局大学連携室室長補佐による基調講演があり、財満副総長は「名古屋大学の産学官連携：革新知から社会的価値の創出



基調講演を行う財満副総長

に向けて」と題し本学の産学官連携に対する取り組みを、竹中氏は「産学官の更なる発展に向けて」と題し国内の大学についての産学官連携の歩みと現状、今後の展望について講演しました。大学、行政、双方の立場から「産学官連携」についての考えを聞く貴重な機会となり、講演後は活発な質疑応答が交わされました。

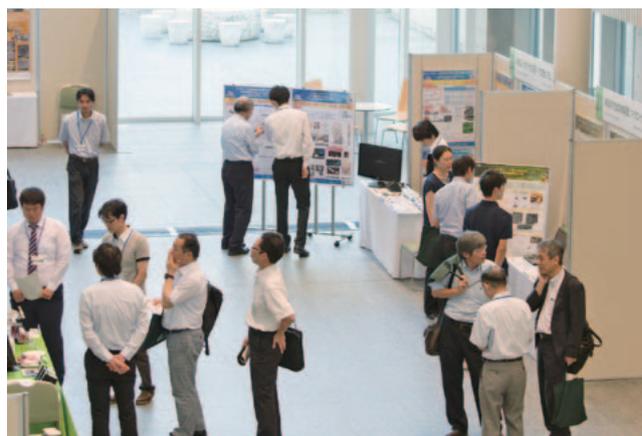
基調講演に続いては、同講堂3階に会場を移して、ブース出展者等による7題のミニ講演が行われ、講演者と聴衆の距離が近いという会場の特性もあり、こちらも活発な質疑応答が展開されました。

午後から実施された3カ所の研究室見学には、ブース展示やミニ講演で興味を持ち、当日申込で見学を希望した参加者が多数見受けられました。

シンポジオンホール及び豊田講堂アトリウムで実施されていたブース展示会場では、33のブース展示が出展され、訪れた企業の研究開発担当者や説明者との意見交換は、終日途絶えることがありませんでした。



基調講演を行う竹中室長補佐



ブース展示見学の様子

サマースクール「アジアの法と社会2015」を開催

●大学院法学研究科、法制国際教育協力センター

大学院法学研究科及び法政国際教育協力センター(CALE)は、8月19日(水)から21日(金)の3日間、文系総合館カンファレンスホールにおいて、サマースクール「アジアの法と社会2015」を開催しました。

今年度で7度目の開催となり、例年、全国から法学部生・大学院生・法科大学院生・社会人等、様々な方が参加



ベトナムからの研修生による発表の様子

しています。3日間のプログラムは、法律実務家と研究者による、アジアにおける比較法的研究や法整備支援の理論的考察など、多様な視点を扱った講義を中心に構成されました。さらに、アジア諸国(ウズベキスタン・モンゴル・ベトナム・カンボジア)の日本法教育研究センターで日本語と日本の法律を学ぶ法学部生との合同セッションも開催され、アジア各国の法律問題・社会問題についての意見交換を行いました。本企画は、参加者同士が、意見交換や懇親会等を通じて交流を深め、将来につながるネットワークを構築する場としても、貴重な機会とされています。

サマースクールは、同研究科及びCALEが、法務省法務総合研究所、公益財団法人国際民商事法センター、慶應義塾大学大学院法務研究科、神戸大学大学院国際協力研究科、早稲田大学法学学術院・比較法研究所、独立行政法人国際協力機構(JICA)、日本弁護士連合会、アジア法学会と協働で開催している、次世代のアジア諸国法研究者や法整備支援の担い手を育成するための連携企画「アジアのための国際協力in法分野2015」の第2弾として開催されました。11月28日(土)には、第3弾「法整備支援シンポジウム」が実施される予定です。

夏休み体験学習「粘土鉱物の謎に迫る」を開催

●年代測定総合研究センター

年代測定総合研究センターは、8月25日(火)、26日(水)の両日、地域貢献特別支援事業として、夏休み体験学習「粘土鉱物の謎に迫る」を開催しました。この企画は、小中学生を対象に、テーマに沿った授業と野外や室内での実習を組み合わせ、「年代」をキーワードにした分野の研究にふれてもらうことを目的としており、今年で4回目の開催



セリサイト鉱山における記念撮影

となりました。

今回は、同センターが研究の対象の1つとしている、土器などの焼き物とその材料である粘土をテーマとし、生徒18名、保護者5名の計23名が参加しました。初日は、焼き物づくりの実習と粘土のでき方の説明や、粘土鉱物の性質を確かめる実験を行いました。また、同センターで行っている放射性炭素14(^{14}C)測定によって、どうやって縄文時代や弥生時代の土器が使われていた年代を知るのかなどについての紹介もされました。2日目には、東三河にある三信鉱工株式会社の協力のもと、粘土鉱物の一種であるセリサイト(絹雲母)鉱山の見学を行い、セリサイトがおよそ1400万年前の火成活動とそれともなう熱水活動によってできたことや高級化粧品原料になることなど説明を受けました。また、セリサイトやそれに付随する黄鉄鉱の採取も行いました。その後、愛知県陶磁資料館を訪問し、学芸員の方から東海地方における焼き物の歴史、焼き物の特徴、粘土の種類などについて説明を受けた後、資料館周辺で粘土の露頭を観察し、最後に轆轤(ろくろ)を使って器を作ることに挑戦しました。2日間を通じて参加者からの質問も多く、企画の目的は達せられたようです。

高校生防災セミナーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月23日(木)、24日(金)、27日(月)、8月25日(火)、減災館において、高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催しました。このセミナーは、将来的に巨大地震等による大災害を経験する可能性のある高校生に、災害発生の科学や減災対策、災害と付き合う知恵、「生きる力」を学び取ってもらい、



高校生による発表の様子

自立して活動できる防災リーダーになってもらうことを目的として開催しており、今年で5年目となります。このセミナーは、夏休み中の座学・実学による学修と2学期の実践活動、年末の活動成果発表会から構成されており、今年度は新たに県内の高等学校15校から、高校生・教員合わせて75名が参加しました。

セミナーでは、減災連携研究センター関連教員による地震や液状化、津波災害の災害発生メカニズムやその対策、防災・減災とまちづくり、災害医療に関する講義、愛知県防災局によるHUG、NPOによる防災ボランティアの役割に関する講義や災害図上訓練、また、各学校での防災活動のアクションプラン作成のワークショップ等が行われました。

最終日の午後には、昨年度より参加しているV期生の成果報告と今年度から参加したVI期生の計画発表が行われました。V期生からは、各校の特徴を生かしたこれまでの様々な取り組みが、また、VI期生からは、今回学んだことやこれから実施計画が発表され、各自治体の方も参加して会場との意見交換を行いました。12月25日(金)には、高校生防災フォーラムを開催し、代表校による活動発表やグループ発表、意見交換などが行われる予定です。

名古屋 COI 拠点関連行事を開催

●未来社会創造機構

未来社会創造機構、多様化・個別化社会イノベーションデザイン拠点(名古屋COI)は、8月28日(金)東京都TOC有明コンベンションホールにおいて、文部科学省「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」の「平成27年度名古屋COI拠点成果発表会」及び「グローバルモビリティ拠点サミット2015」を同時開催しました。



COI 拠点成果発表会での講演

同拠点では、「高齢者が元気になるモビリティ社会」の実現を目指し、10年後を見通した研究開発活動を、産業界・大学・行政と連携して推進しています。「名古屋COI拠点成果発表会」では、事業開始から3年目の取り組みとこれまでの成果を紹介しました。江崎研司プロジェクトリーダーの全体概要説明の後、同機構に所属する教員からの各成果の紹介へと続き、モビリティの研究分野の成果について二宮芳樹特任教授及び金森 等特任教授が、また、高齢者の外出を促進する情報サービスや機器の研究分野の成果について武田一哉教授、及び新井史人教授が紹介を行いました。

一方、「グローバルモビリティ拠点サミット」では、前半に、ピーター・ノールデジー氏(ハイテクオートモーティブキャンパス、オランダ)、アンキー・スリパカゴン准教授(チュラロンコン大学スマートモビリティリサーチセンター、タイ)、フェイ・ペン教授(ミシガン大学交通研究所、アメリカ)が各拠点の先進的な取り組みを紹介しました。後半では、拠点内外から産学官界の著名なパネリストを迎え「高齢者社会×自動運転」をテーマにパネルディスカッションを行い、今後の研究活動の展開に向けての貴重な示唆が得られました。

第46回地球教室「鍾乳洞の正体をあばこう!」を開催

●博物館

博物館は、8月29日(土)、30日(日)、の2日間第46回地球教室「鍾乳洞の正体をあばこう!」を開催しました。これは2005年から行っている催しで、今回は抽選により選ばれた、小中学生、高校生及び一般の方30名が参加しました。

今回は、鍾乳洞や鍾乳石が形成されるプロセスについて学びながら、地球科学や自然への興味を深めてもらうこと



ケイビング器材を身につけて鍾乳洞の中で解説を受ける参加者の様子(美山鍾乳洞)

が目的でした。1日目は、同館において鍾乳洞と石灰岩との関わりや、サンゴについて講義を行ったほか、石灰岩を溶解させてスタンプを作ったり、鍾乳石を切断した標本の観察を行いました。2日目には、岐阜県郡上市の美山鍾乳洞に出かけました。観光ルートの見学だけでなく、洞窟の奥深くにもぐるケイビングも行い、複雑に入り組んだ鍾乳洞を体感し、鍾乳石を間近で観察しました。アンケートでは、幅広い年齢の参加者から高い評価をいただきました。なお、この事業は名古屋市科学館との連携事業で、愛知大学名古屋一般教育研究室の援助を受けています。

ミクロの探検隊®を開催

●博物館

博物館では、7月25日(土)と8月29日(土)2日間にわたり、ミクロの探検隊®「名古屋大学のムシを電子顕微鏡で観察しよう! -観察園のムシ-」を開催しました。

これは、野外での採集と実験室での観察の両方を体験するプログラムで、ミクロの探検隊®の中でも人気が高いイベントであり、今回は小中高生を中心に抽選で選ばれた42



電子顕微鏡を使って虫を観察する参加者

名が参加しました。

まず始めに同館野外観察園で、ビーティングネットを使用して、クモ、ゾウムシ、シデムシなどの小さな夏のムシを集めました。最初は、こわごわムシをつかんでいた小学生も次第に慣れ、ビーティングネットに落ちたムシを上手に採集瓶の中に集めていました。その後、昨年から新しくなった同館実験室で実体顕微鏡を使って、採集したムシを観察し、ムシの名前を講師に教えてもらったり、スケッチを行ったりしました。また、持参のカメラを使い顕微鏡写真に挑戦している様子も見られました。さらに詳細に観察するため、電子顕微鏡での観察撮影も行いました。初めてさわる電子顕微鏡とモニターに映し出される今まで見たことのないミクロの世界に、参加者は興奮気味にどんどん引き込まれていました。アンケートに回答でも、「とても面白かった、科学への興味がわいた、また参加したい」など、楽しんで科学に触れたことがうかがえました。また、自分自身で採集・撮影したムシの電子顕微鏡写真を使ってポストカードを作り、これも夏休みの良い記念となり、参加者は充実した1日を過していました。

第113回防災アカデミー

受賞者一覧

勲章関係等

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27.6.5	正四位瑞宝中綬章	名誉教授	山下 廣順	

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 2.20	NEDO Technology Commercialization Program 最優秀賞		Photocathode Electron Soul	メンバー 西谷智博（シンクロトロン光研究センター 特任講師）、岡田育夫（シンクロトロン光研 究センター特任教授）
H27. 3.19	日本薬理学会 江橋節郎賞	大学院医学系研究科教授	貝淵 弘三	
H27. 4.19	第74回日本医学放射線学会総会 Silver Medal	医学部附属病院病院助教	久保田誠司	伊藤善之（大学院医学系研究科特任教授）、 副松由加（医学部附属病院医員）、 長縄慎二（大学院医学系研究科教授）、 他6名と連名
H27. 5.26	日本火山学会研究奨励賞	大学院環境学研究科助教	前田 裕太	
H27. 5.27	日本地球惑星科学連合大会 2015年大会 生物地球化学セッションポスター賞	大学院環境学研究科准教授	中川 書子	
H27. 5.29	2015年日本建築学会賞（業績）		施設・環境計画 推進室、 工学部施設整備 推進室、 大学院環境学研究科 奥宮研究室、 施設管理部	工学部施設整備推進室メンバー 太幡英亮（工学部施設整備推進室准教授） 恒川和久（工学部施設整備推進室准教授）
H27. 5.29	2015年日本建築学会教育賞		国際トラス コンテストの会	メンバー 大森博司（名誉教授）、 中村聡宏（大学院環境学研究科助教）
H27. 6.10	2015年 日本コンクリート工学会賞（論文賞）	大学院環境学研究科教授	勅使川原正臣	
H27. 6.16	Excellent paper (2015 JSME-IIP/ASME-ISPS Joint Conference on Micromechanics for Information and Precision Equipment)	大学院情報科学研究科 研究員	ラジャイ ナダー	大岡昌博（大学院情報科学研究科教授）、 他3名と連名
H27. 6.17	平成27年度全国発明表彰 21世紀発明奨励賞	大学院生命農学研究科教授	内田 浩二	
H27. 6.19	電子情報通信学会 リコンフィギャラブルシス テム研究会 優秀論文賞	情報基盤センター	嶋田 創	共著の論文が受賞、著者12名中の第4著者
H27. 6.20	2015年度地理空間学会賞 学術賞	大学院環境学研究科教授	横山 智	
H27. 6.26	2015 Fellow of ASPB Award	トランスフォーメティブ生 命分子研究所客員教授	鳥居 啓子	
H27. 6.26	日本エアロゾル学会 2015年度奨励賞	太陽地球環境研究所助教	中山 智喜	
H27. 6.26	2014年度日本古生物学会学術賞	大学院環境学研究科准教授	須藤 斎	
H27. 6.27	応用生化学研究所 Medical Innovation Prize (医学新機軸賞)	大学院生命農学研究科教授	下村 吉治	
H27. 7. 7	新化学技術推進協会 第4回グリーン・ サステナブルケミストリー奨励賞	大学院工学研究科助教	ウヌヤック ムハメット	
H27. 7. 9	第37回(2015年度) 応用物理学会 優秀論文賞	未来社会創造機構特任助教	橋爪 博司	堀 勝（未来社会創造機構教授）、 石川健治（大学院工学研究科特任教授）、 竹田圭吾（大学院工学研究科助教）、 他2名との連名
H27. 7.10	日本動脈硬化学会 第10回五島雄一郎賞	大学院医学系研究科 寄附講座教授	大内 乗有	
H27. 7.11	第73回中部日本系球体腎炎談話会 優秀演題賞	医学部附属病院医員	馬淵 正綱	勝野敬之（医学部附属病院病院助教）、 坪井直毅（医学部附属病院講師）、 丸山彰一（大学院医学系研究科准教授）、 他14名と連名
H27. 7.15	Annals of Nuclear Medicine Frequently Cited Paper 2014	大学院医学系研究科教授	山本 誠一	
H27. 7.16	第37回日本コンクリート工学講演会年次論文 奨励賞	大学院工学研究科助教	三浦 泰人	
H27. 7.17	第10回日本うつ病学会奨励賞（医学分野）	大学院医学系研究科講師	岩本 邦弘	
H27. 7.19	日本学校心理学会大会発表賞	心の発達支援研究実践 センター研究員	野村あすか	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H27. 7.20	第12回 EB ウイルス研究会 学術奨励賞	大学院医学系研究科助教	佐藤 好隆	
H27. 7.22	日本コンピュータ外科学会 2014年度講演論文賞	未来社会創造機構教授	新井 史人	他8名と連名
H27. 7.29	Best Paper Oral Award, 15th International Conference on Nanotechnology IEEE NANO 2015	未来社会創造機構教授	新井 史人	丸山央峰 (大学院工学研究科准教授)、 チョン・ジン (大学院工学研究科研究員)、 リュウ・ヘンジュン (大学院工学研究科 D3) と連名
H27. 7.30	Outstanding Contribution in Reviewing (The 18th Meeting on Image Recognition and Understanding 2015)	大学院情報科学研究科 准教授	井手 一郎	
H27. 7.31	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 (書面担当) 及び 国際事業委員会書面審査員の表彰	物質科学国際研究センター 教授	菱川 明栄	
H27. 7.31	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 (書面担当) 及び 国際事業委員会書面審査員の表彰	大学院理学研究科講師	岩淵 万里	
H27. 8.21	鉄鋼環境基金 技術委員長賞	太陽地球環境研究所助教	中山 智喜	
H27. 8.26	電気学会優秀論文発表賞	エコトピア科学研究所 寄附研究部門助教	真鍋 勇介	
H27. 8.27	日本教育心理学会 優秀論文賞	大学院教育発達科学研究科 教授	中谷 素之	他1名との共著
H27. 8.27	平成26年電子・情報・システム部門大会 企画賞	エコトピア科学研究所教授	加藤 丈佳	
H27. 8.28	第13回 産学官連携功労者表彰～つなげる イノベーション大賞～ 内閣総理大臣賞	大学院工学研究科教授	山田 陽滋	
H27. 8.28	第13回 産学官連携功労者表彰～つなげる イノベーション大賞～ 日本学術会議会長賞	大学院工学研究科教授	天野 浩	
H27. 8.31	日本分析化学会中部支部 中部分析化学奨励賞	大学院工学研究科助教	安井 隆雄	
H27. 9. 4	Best Poster Award, The 12th Asia-Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery (ELSA 2015)	医学部附属病院病院助教	城田千代栄	内田広夫 (大学院医学系研究科教授)、 他7名と連名
H27. 9. 4	第32回日本ロボット学会学術講演会 研究奨励賞	大学院工学研究科特任助教	早川 健	
H27. 9. 6	第9回口口賞	大学院医学系研究科准教授	杉浦 一充	
H27. 9. 7	日本植物学会賞 大賞	名誉教授	杉浦 昌弘	
H27. 9. 7	日本植物学会 JPR 論文賞 Best Paper 賞	トランスフォーマティブ 生命分子研究所 学振特別研究員	富山 将和	木下俊則 (トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授)、 井上晋一郎 (理学研究科助教)、 高橋宏二 (理学研究科助教)、 他6名と連名
H27. 9. 8	日本液晶学会 論文賞 (A部門)	大学院工学研究科助教	原 光生	
H27. 9. 8	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015最優秀論文賞	大学院情報科学研究科 准教授	吉田 則裕	高田光隆 (大学院情報科学研究科研究員)、 高田広章 (未来社会創造機構教授)、 他3名と連名
H27. 9. 9	日本応用数学会論文賞 (JJAM-Letters 部門)	大学院情報科学研究科教授	畔上 秀幸	他2名と連名
H27. 9. 9	日本応用数学会論文賞 (理論部門)	大学院情報科学研究科教授	畔上 秀幸	
H27. 9. 9	電子情報通信学会 平成27年フェロー称号	大学院情報科学研究科教授	結縁 祥治	
H27. 9. 9	電子情報通信学会 通信ソサイエティ活動功労賞	エコトピア科学研究所 准教授	岡田 啓	
H27. 9.10	第43回日本磁気共鳴医学会 最多査読賞 (2014 MRMS Distinguished Reviewer)	大学院医学系研究科教授	長縄 慎二	
H27. 9.10	第43回日本磁気共鳴医学会 最多査読賞 (2014 MRMS Most Valuable)	医学部附属病院病院准教授	田岡 俊昭	
H27. 9.10	日本分析化学会 学会賞	大学院工学研究科教授	馬場 嘉信	
H27. 9.15	Mukaiyama Award	トランスフォーマティブ 生命分子研究所教授	山口 茂弘	
H27. 9.15	日本数学会 2015年度 (第14回) 解析学賞	大学院多元数理科学研究科 教授	杉本 充	
H27. 9. 4	日本ロボット学会 フェロー (称号)	未来社会創造機構教授	新井 史人	

受賞者一覧

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H26. 8. 4	外国語教育メディア学会新人奨励賞	大学院国際開発研究科 D3	草薙 邦広	
H27. 1.20	平成26年度電気・電子・情報関係学会 東海支部連合大会 奨励賞	大学院工学研究科 M1	出口 真行	
H27. 1.20	電気学会東海支部 電気学会優秀論文発表賞	大学院工学研究科 M2	山田 大策	
H27. 1.20	電気学会東海支部 電気学会優秀論文発表賞	大学院工学研究科 M2	長沼 克宙	
H27. 3. 6	電気学会 開閉保護技術委員会 開閉保護研究発表賞	大学院工学研究科 M2	長沼 克宙	
H27. 3.24	日本衝撃波研究会 平成26年度衝撃波シンポジウム 若手プレゼンテーション賞	大学院工学研究科 M1	古川 大貴	青木勇磨 (工学部4年)、 岩川 輝 (大学院工学研究科助教)、 佐宗章弘 (大学院工学研究科教授) と連名
H27. 3.30	Third Prize, Challenge Esicup 2015-Container Loading Short Runtime Competition	大学院工学研究科 M2	岩澤 宏紀	今堀慎治 (大学院工学研究科准教授) と 連名
H27. 5. 7	日本植物病理学会創立100周年記念大会 学生優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M1	磯部 仁美	竹本大吾 (大学院生命農学研究科准教授) 他4名と連名
H27. 5. 9	名古屋大学大学院工学研究科 物質制御工学総合プロジェクト 第19回中間発表会 最優秀賞	大学院工学研究科 M2	間宮 文彦	
H27. 5.11	平成26年度 電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	西木 悠	結縁祥治 (大学院情報科学研究科教授) と 連名
H27. 5.21	第20回日本血栓止血学会学術奨励賞	大学院医学系研究科 D3	村田 萌	
H27. 5.23	第37回日本血栓止血学会学術集会 優秀ポスター賞	医学部保健学科 4年	橋本恵梨華	
H27. 5.23	第37回日本血栓止血学会学術集会 優秀ポスター賞	大学院医学系研究科 D2	高木 夕希	
H27. 5.23	第37回日本血栓止血学会学術集会 優秀ポスター賞	大学院医学系研究科 D3	村田 萌	
H27. 5.27	Best Poster Award in the Student Poster Competition at the 2015 Joint ISAF-ISIF-PFM Conference, IEEE Ultrasonics, Ferroelectrics, and Frequency Control Society	大学院工学研究科 M2	伊藤 大介	
H27. 5.29	平成27年度 火薬学会春季研究発表会 優秀講演賞	大学院工学研究科 D1	丹波 高裕	古川大貴 (大学院工学研究科 M2)、 青木勇磨 (大学院工学研究科 M1)、 家弓昌也 (大学院工学研究科 M1)、 岩川 輝 (大学院工学研究科助教)、 佐宗章弘 (大学院工学研究科教授) と連名
H27. 5.29	レーザー学会第35回年次大会 優秀論文発表賞	大学院工学研究科 M1	丹羽 真規	
H27. 6. 5	新規素材探索研究会 奨励賞	大学院生命農学研究科 M2	平田 裕嗣	
H27. 6. 6	日本繊維機械学会第68回年次大会研究発表会 ベストポスター発表賞	大学院工学研究科 M2	藤島 知樹	向井康人 (大学院工学研究科准教授) と 連名
H27. 6. 8	空気調和・衛生工学会振興賞 (技術振興賞)	大学院環境学研究科 D2	鶴飼真貴子	
H27. 6.10	RSC Integrative Biology Poster Award	大学院工学研究科 D2	新井小百合	
H27. 6.13	シンポジウム モレキュラー・キラリティー 2015 ポスター賞	大学院工学研究科 M2	間宮 文彦	
H27. 6.15	Five Winners of Award Finalists, 19th International Conference on Cytochrome P450	大学院理学研究科 M2	小野田浩宜	
H27. 6.15	The President's Award, 19th International Conference on Cytochrome P450	大学院理学研究科 M2	小野田浩宜	
H27. 6.19	平成27年度名古屋大学学術奨励賞	大学院創薬科学研究科 D2	齋藤 恭紀	
H27. 6.19	Best Paper Award ICAI2015	大学院理学研究科 D3	浅田 貴志	他10名と連名
H27. 6.20	第二回構造デザインコンペティション 総合資格奨励賞	工学部 4年	陣 昂太郎	竹内馨一 (工学部3年) と連名
H27. 6.20	第二回構造デザインコンペティション 審査員賞 (大森賞)	工学部 4年	陣 昂太郎	竹内馨一 (工学部3年) と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27. 6.23	Young Investigator Travel Stipend & Top 20% of Poster by Score (ISTH 2015 Congress Toronto)	大学院医学系研究科 D3	村田 萌	
H27. 6.26	日本セラミックス協会東海支部 東海若手セラミスト懇話会 最優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	永岡沙希子	
H27. 6.26	日本セラミックス協会東海支部 東海若手セラミスト懇話会 優秀発表賞	大学院工学研究科 M2	小泉 充弘	
H27. 7. 1	名古屋大学学術奨励賞	大学院理学研究科 D3	武藤 慶	
H27. 7. 1	名古屋大学学術奨励賞	大学院理学研究科 D3	竹川 宜宏	
H27. 7. 2	Best Poster Award, ICMAT2015 & IUMRS-ICA2015	大学院工学研究科 M2	加藤 祥平	
H27. 7. 4	第61回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 D2	村山 司	
H27. 7. 4	第61回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 M2	服部 治彦	
H27. 7. 4	第61回日本薬学会東海支部大会 学生優秀発表賞	大学院創薬科学研究科 M2	吉田 啓	
H27. 7. 4	Best Poster Award, MTSA 2015/TeraNano-6 Certificate	大学院工学研究科 D1	村手 宏輔	
H27. 7. 5	ISS 2015 Best Paper Award for Scheduling Practice	大学院情報科学研究科 D2	呉 偉	胡 艶楠 (大学院情報科学研究科 D3)、 柳浦睦憲 (大学院情報科学研究科教授)、 他3名と連名
H27. 7. 8	ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞	大学院理学研究科 D3	林 真妃	
H27. 7.10	日本生物工学会セルプロセッシング計測評価 研究部会 第7回若手研究シンポジウム 若手研究奨励賞 (Young Researcher's Award)	大学院創薬科学研究科 D2	河合 駿	
H27. 7.16	第37回コンクリート工学講演会 年次論文奨励賞	大学院工学研究科 M2	岩本 拓也	
H27. 7.16	Outstanding Poster Presentation Award, ICCOSS XXII	大学院理学研究科 D1	水野 麻人	
H27. 7.18	生体機能関連化学部会若手の会 第27回サマースクール ポスター賞	大学院理学研究科 M2	小野田浩宜	
H27. 7.22	第36回日本炎症・再生医学会 優秀演題賞	大学院医学系研究科 D4	加納 史也	山本朗仁 (大学院医学系研究科准教授)
H27. 7.22	日本炎症・再生医学会 第12回国際炎症学会 Travel Award	大学院医学系研究科 D4	加納 史也	山本朗仁 (大学院医学系研究科准教授)
H27. 7.24	微生物学 極域海生珪藻ワークショップ ベスト学生 ポスター発表賞 (南極部門)	大学院環境学研究科 D1	加藤 悠爾	
H27. 8. 1	第1回「高次複合光応答」若手の会 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	野田玲央奈	
H27. 8. 4	外国語教育メディア学会新人奨励賞	大学院国際開発研究科 D3	福田 純也	
H27. 8. 6	Poster Prize, the European Biological Rhythms Society/World Congress of Chronobiology Meeting 2015	大学院生命農学研究科 D3	太田 航	吉村 崇 (トランスフォーマティブ生命 分子研究所教授)、他2名と連名
H27. 8. 6	電子情報通信学会データ工学研究会、および 情報処理学会データベースシステム研究会・ 情報基礎とアクセス技術研究会 学生奨励賞	大学院情報科学研究科 D1	杉浦 健人	
H27. 8. 7	日本下垂体研究会第30回学術集会 最優秀発表賞	大学院生命農学研究科 D3	渡辺 雄貴	他4名と連名
H27. 8. 8	第47回構造有機化学若手の会 夏の学校のポスター発表 ポスター賞	大学院工学研究科 M1	坪井 秀夫	
H27. 8.13	Best Poster, The 15th International Congress of Quantum Chemistry	大学院理学研究科 D3	アリフィン	
H27. 8.20	第二回中青年漢日対比言語学優秀成果奨 論文奨	国際言語文化研究科 D3	朱 薇娜	
H27. 8.22	日本進化学会 第17回大会 優秀学生ポスター 発表賞	大学院理学研究科 D2	松原 由幸	
H27. 9. 1	日本分析学会 第34回分析化学中部夏期セミ ナー 優秀ポスター発表賞	大学院工学研究科 M2	竹下 大貴	
H27. 9. 3	第31回ファジィシステムシンポジウム ポスター・デモセッション 最優秀賞	大学院工学研究科 D2	ジメネス フェリックス	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H27. 9. 3	第31回ファジィシステムシンポジウム ポスター・デモセッション 優秀賞	大学院工学研究科 M1	月岡 晋吾	
H27. 9. 4	Best Poster Award, Minimally Invasive Surgery Week 2015, SLS Annual Meeting & Endo Expo	大学院医学系研究科 D3	村瀬 成彦	内田広夫 (大学院医学系研究科教授)、 他7名と連名
H27. 9. 4	第20回日本ロボティクスシンポジウム 研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	杉浦 広峻	
H27. 9. 5	高分子学会東海支部 東海高分子研究会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 D2	浅井 裕介	
H27. 9. 5	高分子学会東海支部 東海高分子研究会 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M1	森 貴裕	
H27. 9. 7	Reaxys PhD Prize Finalist	大学院工学研究科 D3	林 裕樹	
H27. 9. 8	2015年日本液晶学会討論会 虹彩賞	大学院工学研究科 M1	野田玲央奈	

受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
1 本学と大垣共立銀行は「アジア諸国の国家中枢人材育成プログラム」で学ぶ海外の留学生を同行が支援する協定を結んだ	8.16 (日)	中日 (朝刊)
2 本学や京都大学、神戸大学、情報通信研究機構など11の大学・研究機関が局地豪雨を、雨雲ができる前の気流の変化などから30分以上前に予測するための大規模研究を開始	8.18 (火)	読売
3 山岡耕春環境学研究科教授は海上保安庁が南海トラフで陸側プレートの海底が移動しているのを観測したことについて「今回の観測で、巨大地震の発生メカニズムの解明が進む」と語る	8.19 (水)	読売
4 野外観察園セミナーハウス サテライト展示「ムシの世界—名古屋大学博物館の昆虫標本と切り紙と博物画」開催：7月6日～10月30日	8.19 (水) 8.26 (水) 9. 2 (水) 9. 9 (水) 9.14 (月)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 日経 (夕刊)
5 松見 豊太陽地球環境研究所教授らのグループは、小型で精度の高い大気中の微粒子 (PM2.5) 計測器の開発に成功し、パナソニックが9月に発売する空気清浄機に内蔵されることになった	8.20 (木)	読売
6 ソフトウェアがつくる価値⑥：ソフトの劣化で開発スピード低下 依存関係減らし、即改善 森崎修司情報科学研究科准教授	8.20 (木)	日刊工業
7 経済観測：女性が本当に輝くには 丹羽宇一郎本学名誉博士	8.20 (木)	毎日 (朝刊)
8 ヴォン・スレイダェンさん本学留学生とスリン・シムさん本学に入学予定の2人が監督の通訳を務め9月1日開幕のあいち国際女性映画祭2015でカンボジア映画「シアター・ブノンペン」が上映される	8.20 (木)	中日 (朝刊)
9 萩原伸也トランスフォーマティブ生命分子研究所特任准教授と土屋雄一朗同研究員らのグループはストライガの発芽に重要な役割を持つタンパク質を解明	8.21 (金)	中日 (朝刊)
10 有村治子女性活躍相が本学を視察	8.21 (金)	日経 (朝刊)
11 化学グランプリ2015二次選考 開催：21日 篠原久典理学研究科教授と伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授が講演	8.22 (土) 8.27 (木)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
12 全日本学生フォーミュラに出場するフォーミュラチーム「FEM」のリーダ西尾俊亮さん工学研究科1年生は「プレッシャーに打ち勝ち、自分たちの力を出し切りたい」と語る	8.22 (土)	中日 (夕刊)
13 読売新聞が実施した国立大学長アンケートの中で、本学は文部科学省の3類型の選択について、「世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進」を選んだと回答	8.24 (月)	読売
14 カーボンナノチューブによる柔軟で透明なエレクトロニクスとその展望 大野雄高エコトピア科学研究所教授	8.25 (火)	日刊工業
15 本学の日本法教育研究センターに在籍するアジアの学生向けに十六銀行がセミナーを開催	8.25 (火)	日経 (朝刊)
16 医人伝：豊橋市民病院血液・腫瘍内科副部長西脇聡史氏本学卒業生	8.25 (火)	中日 (朝刊)
17 本学の自動運転システム用オープンソースソフトウェア「Autoware」を搭載した自動運転実験車を株式会社 ZMP が発売すると発表し、ソフトを中心となって開発した加藤真平情報科学研究科准教授は「基盤として使ってもらい、より多くの人々が自動運転の研究をできるようにしたい」と語る	8.26 (水)	日刊工業
18 岡本文典太陽地球環境研究所研究機関研究員などは太陽観測衛星の「ひので」と「IRIS (アイリス)」の観測で、太陽コロナが高温に加熱される一因となる波動エネルギーが熱エネルギーに変換される過程を捉えることに成功	8.26 (水)	日刊工業
19 経済団体連合会会長神原定征氏本学卒業生ら経団連の首脳陣がメンター役となり、経団連に加盟する大手企業の女性役員の親睦組織「女性エグゼクティブ・ネットワーク」が月内に発足する	8.26 (水)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
20 本学は熟練運転車並みの能力を持つ自動運転知能で、高齢者の安全運転を支援するシステムの実験車両を開発	8.27 (木)	日刊工業
21 ナビゲーター：若い先生に驚き 加藤真平情報科学研究科准教授との出会いを株式会社 ZMP 社長谷口 恒氏が語る	8.27 (木)	日刊工業
22 内田 良教育発達科学研究科准教授がピラミッドの高さは建物の2～3階に相当し、一番下の生徒には最大で約3人分の負担がかかると解説する組み体操のピラミッドについて、大阪市教育委員会が段数制限を検討していることが分かった	8.27 (木)	読売
23 防災特集：想定外の災害に備える 田代 喬減災連携研究センター寄附研究部門准教授	8.27 (木)	中日 (朝刊)
24 第15回世界陸上競技選手権大会：27日 女子5000メートル予選2組 6着 (決勝進出) 鈴木亜由子氏本学卒業生	8.27 (木) 8.28 (金)	中日 (夕刊) 中日 (朝刊) 他2社
25 鈴木 攻め貫く 鈴木亜由子氏本学卒業生が決勝でリオディジャネイロオリンピックの出場権をかけ走り、出場になれば本学卒業生としては名古屋高等商業学校に在籍した清川正二氏以来となる	8.28 (金)	中日 (朝刊)
26 シンポジウム「地域から考えるエネルギー政策～再生可能エネルギーが未来をつくる～」開催：9月6日 竹内恒夫環境学研究科教授による基調講演	8.28 (金) 9. 2 (水)	読売 中日 (朝刊)
27 防災特集：想定外の災害に備える 田代 喬減災連携研究センター寄附研究部門准教授	8.28 (金)	中日 (朝刊)
28 斎藤 進理学研究科教授らは動植物の脂肪などに含まれるカルボン酸をアルコールに変化させる新たな触媒を開発した	8.29 (土)	中日 (朝刊)
29 堀 克敏工学研究科教授らのグループは食品工場などの排水に含まれる油を従来の10倍以上の能力で分解する新しい微生物製剤を開発した	8.29 (土) 9. 2 (水)	朝日 (朝刊) 日刊工業
30 朝日カルチャーセンター名古屋「南極の色は何色?」：長田和雄環境学研究科准教授、「南極内陸の氷雪調査と地球温暖化」：上田 豊本学名誉教授、「オーロラはなぜできるのか」：藤井良一太陽地球環境研究所教授	8.30 (日)	朝日 (朝刊)
31 長尾能雅医学部附属病院教授や隈本邦彦減災連携研究センター客員教授が医療事故調査委員会の委員を務める群馬大学の肝臓手術後死亡問題で同委員会は初会合が開かれた	8.31 (月)	読売 日経 (朝刊)
32 第15回世界陸上競技選手権大会：27日 女子5000メートル決勝 9着 日本郵政グループ鈴木亜由子氏本学卒業生	8.31 (月)	読売 他3社
33 鈴木亜由子氏本学卒業生は第15回世界陸上競技選手権大会で女子5000メートル決勝のレースについて「あとちょっとでリオ五輪だったので悔しい。甘さかな」と語る	8.31 (月)	中日 (朝刊) 他2社
34 男女区別 社会ゆがめる：東京大学教授安富 歩氏元本学助教授	8.31 (月)	毎日 (夕刊)
35 第113回防災アカデミー「南海トラフ巨大地震の時代をどう迎えるか」開催：11日 石橋克彦本学名誉教授が解説	9. 1 (火)	中日 (朝刊)
36 旬の人 時の人：三菱重工業株式会社執行役員フェロー二村幸基氏本学卒業生	9. 1 (火)	日経 (朝刊)
37 社説：仏作って魂入れよう 防災とハザードマップ 鈴木康弘減災連携研究センター教授はハザードマップについて東日本大震災では「宮城県は津波の想定を低く見積もっていた。貞観地震で大津波に遭っていたのだから、それをハザードマップに入れておくべきだった」と語る	9. 1 (火)	中日 (朝刊)
38 内田 良教育発達科学研究科准教授は大阪市教育委員会が組み体操の段数制限を決めたことを受け「感動や一体感ではなく、何より児童・生徒の安全が重視されるべきだ」と語る	9. 1 (火)	朝日 (夕刊)
39 林 良嗣環境学研究科教授が国際調査機関「ローマクラブ」の正会員に選出された	9. 2 (水)	読売 朝日 (朝刊)
40 つなぐアカデミック人脈：気鋭の数学者 京大数理研に集う 個性派交わり相乗効果 森 重文本学特別教授など	9. 2 (水)	日経 (朝刊)
41 人工知能 夢は小説家 公立はこだて未来大学が代表を務める本学や法政大学などのグループが挑戦し、文章生成を佐藤理史工学研究科教授が担当	9. 2 (水)	朝日 (夕刊)
42 野外観察園セミナーハウス サテライト展示ムシの世界ー名古屋大学博物館の昆虫標本と切り紙と博物画開催：7月6日～10月30日	9. 2 (水)	朝日 (朝刊)
43 第18回ヨウ素学会賞：金賞 石原一彰工学研究科教授 ヨウ素触媒及び反応剤を用いる高選択的有機変換反応の開発	9. 2 (水)	化学工業日報
44 この人：ローマクラブ正会員に選ばれた林 良嗣環境学研究科教授	9. 3 (木)	中日 (朝刊)
45 松見 豊太陽地球環境研究所教授らのグループは、小型で精度の高い大気中の微粒子 (PM2.5) 計測器の開発に成功し、パナソニックが9月に発売する空気清浄機に内蔵されることになった	9. 3 (木)	日刊工業
46 三村耕一環境学研究科准教授らのグループは生命誕生前の地球に隕石が衝突したときの状態を再現する実験で、DNAの部品となる物質の生成に成功	9. 3 (木)	朝日 (朝刊)
47 生きものたちの時間 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授⑥：四季に適応した繁殖活動 厳しい環境乗り切る	9. 3 (木)	中日 (朝刊)
48 自由自在：柔道事故ゼロのヒント 内田 良教育発達科学研究科准教授の調査によると2012年度までの30年間で学校管理下の柔道で118人が死亡し、1年生の割合が中学で53%、高校では65%だった	9. 3 (木)	朝日 (朝刊)
49 ソフトウェアがつくる価値⑥：ソフトウェア規模と情報伝達 開発に適した組織編成を 森崎修司情報科学研究科准教授	9. 3 (木)	日刊工業
50 学ぶ育む：国立大学改革の概要 本学は文部科学省が設定した大学支援のための3類型で「世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進」を選択	9. 4 (金)	読売
51 東京大学が「自閉症スペクトラム障害」の治療薬の候補を実証し、本学や金沢大学、福井大学と連携し、新たな参加者を募り、臨床試験を行っている	9. 4 (金)	日刊工業

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年8月16日～9月15日]

記事	月日	新聞等名
52 大学の基礎研究に危機 資金改革へ ノーベル賞の芽 どう育成 天野 浩工学研究科教授は「最近、図書費が減らされて参考文献の検索もままならない。海外の研究機関や企業との共同研究、各省庁の競争的資金の獲得などを考えても、教員が多く時間を割いて準備している」と語る	9. 4 (金)	日経 (朝刊)
53 認知症になっても心は生きている～地域で認知症の人を支えるために～開催：23日 鈴木裕介医学系研究科寄附講座准教授が講演	9. 5 (土)	朝日 (朝刊)
54 豊田市美術館リニューアルオープニング記念イベント開催：11月23日 榎 文彦本学名誉博士と同美術館を設計した谷口吉生氏の対談	9. 5 (土)	朝日 (朝刊)
55 日本郵政グループ鈴木垂由子氏本学卒業生が豊橋市役所を訪れ、世界陸上の結果を報告	9. 5 (土)	中日 (朝刊)
56 ローマクラブ入り 四日市に原点 林 良嗣環境学研究科教授	9. 6 (日)	朝日 (朝刊)
57 大幸財団 自然科学系学術研究助成：加藤克彦医学系研究科教授、古庄英和多元数理科学研究科教授、荻 朋男環境医学研究所教授、松田 佑エコトピア科学研究所准教授、西山朋子理学研究科特任講師	9. 6 (日)	中日 (朝刊)
58 病院の実力：がん拠点病院 医学部附属病院の実績が取り上げられる	9. 6 (日)	読売
59 あいちサイエンスフェスティバル2015開催：9月19日～11月3日	9. 6 (日)	毎日 (朝刊)
60 第26回長寿社会フォーラム開催：4日 長寿科学振興財団理事長祖父江逸郎本学名誉教授が講演	9. 6 (日)	中日 (朝刊)
61 日曜に考える：安保法案、経済界から見ると 政府の裁量大きく不安 変えるなら改憲議論が先 丹羽宇一郎本学名誉博士	9. 6 (日)	日経 (朝刊)
62 名古屋大学レクチャー開催：9月6日 赤崎 勇本学特別教授は「ブラウン管の仕事で熱を伴わない発光に非常に興味を持ち、一生関わることになりました」と語り、天野 浩工学研究科教授は「夢中になれることを探してチャレンジして下さい」と語る	9. 7 (月)	中日 (朝刊)
63 愛知県が今年度から実施する国家戦略特区の計画案が明らかになり、医学部附属病院で国内未承認の医薬品を使用できるようにして、最先端のがん治療を可能にすることが分かった	9. 8 (火) 9. 9 (水)	日経 (朝刊) 朝日 (朝刊)
64 シンポジウム「地域から考えるエネルギー政策～再生可能エネルギーが未来をつくる～」開催：6日 竹内恒夫環境学研究科教授が基調講演し「日本のエネルギー行政は国が所轄しているが、ドイツでは国や州、自治体などがそれぞれ担い行っている」と語る	9. 8 (火)	中日 (朝刊)
65 本学の2016年度入試要項が発表される	9. 9 (水)	中日 (朝刊)
66 本学の司法試験合格者は37人で全国の大学の中で12位となった	9. 9 (水)	朝日 (朝刊) 他4社
67 福井康雄理学研究科教授は銀河系の外から飛来してきた雲状の巨大な水素ガスが太陽系を取り巻く水素ガスの雲に衝突しているのを研究チームが初めて確認した	9.10 (木)	中日 (朝刊)
68 第19回自然科学研究機構シンポジウム「宇宙から脳まで 自然科学研究の“ビッグバン”ーコンピューターが切り開く自然科学の未来ー」開催：20日 豊田講堂で行われ、坪木和久地球水循環研究センター教授が伊勢湾台風を再現したシミュレーションなどを説明	9.10 (木)	中日 (朝刊)
69 科学の森：ノーベル賞受賞50年 権威を嫌い、酒を愛す 朝永振一郎氏 益川敏英本学特別教授と小林 誠同特別教授が取り上げられる	9.10 (木)	毎日 (朝刊)
70 経済観測：教育に影響を及ぼす貧富の格差 丹羽宇一郎本学名誉博士	9.10 (木)	毎日 (朝刊)
71 経団連、安易な文系見直し反対 国立大学改革 文部省通知で声明 経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生が「『経済界は文系はいらない、即戦力が欲しい』という報道もあったが、そうじゃない。」と語る	9.10 (木)	朝日 (朝刊)
72 本学は文部科学省の国立大学の3分類の選択について、「世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進」に入った	9.11 (金)	中日 (朝刊)
73 第68回新聞週間「記念の集い」開催：10月21日 丹羽宇一郎本学名誉博士が「わが故郷名古屋の『明日、を想う』をテーマに講演	9.11 (金)	日経 (朝刊) 朝日 (朝刊)
74 山岡耕春環境学研究科附属地震火山研究センター教授は噴火の備えについて「論文で研究内容を次世代に引き継ぐことが重要」と話す	9.11 (金)	日経 (夕刊)
75 名古屋大学レクチャー開催：6日 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が講演	9.12 (土)	中日 (朝刊)
76 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が愛知名誉県民章を授与される	9.12 (土)	中日 (朝刊) 他4社
77 名古屋市西区防災講演会「東海豪雨から15年ーあの日を忘れない」開催：11日 坪木和久地球水循環研究センター教授が「豪雨はいつどこで降っても不思議ではない」と語る	9.12 (土)	中日 (朝刊)
78 濱口前総長の退任祝賀会と最終講義が開催され濱口前総長は「さまざまなことに挑戦できた。幸福感を感じている。大学人冥利に尽きる」と挨拶した	9.13 (日)	中日 (朝刊)
79 応用物理学会秋季学術講演会特別シンポジウム ノーベル受賞者からの未来へのメッセージ開催：13日 益川敏英本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が講演	9.15 (火)	中日 (朝刊)
80 本学はじめ20大学が古典籍のデジタル画像をインターネットで公開する事業に参加	9.15 (火)	中日 (朝刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**9月8日(火)～10月24日(土)、
10月13日(火)～11月14日(土)**
場 所：博物館 3階展示室 (10/6～24)、
博物館エントランス
(10/13～11/14)

時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

博物館スポット展示

テ ー マ：「植物細胞壁のミクロの世界」(9/8～10/24)
「花祭」(10/13～11/14)



**7月6日(月)～10月30日(金)、
11月5日(木)～13日(金)、
11月24日(火)～1月15日(金)**

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス 2階
時 間：10:00～16:00
休 館 日：土・日・祝日、
12月26日～1月3日
(10月17日臨時開館)
入 場 料：無料

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示

テ ー マ：「ムシの世界—名古屋大学博物館の昆虫標本と切り紙と博物画」
(7/6～10/30)
「博物館実習ポスター展」(11/5～13)
「名大の蛾！」(11/24～1/15)



9月19日(土)～11月3日(火)
場 所：愛知県および周辺地域

[問い合わせ先]
学術研究・産学官連携推進本部
特任講師 成 玖美 052-747-6527

あいちサイエンスフェスティバル2015

内 容：様々なサイエンス/ものづくりイベントが集まる地域科学祭

[化石発掘体験ツアー]

10月18日(日)
場 所：土岐川河川敷、瑞浪市化石博物館(岐阜県瑞浪市)
時 間：9:00～16:00
内 容：化石発掘、クリーニング、観察、鑑定、他
定 員：40名
対 象：小学3年生以上、一般
参 加 費：無料(高校生以下)、200円(一般)



10月13日(火)～24日(土)
場 所：2008ノーベル賞展示室
(ES 総合館 2階)
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月・祝日
入 場 料：無料

[問い合わせ先]
理学部・理学研究科事務部 052-747-6577

2008ノーベル賞展示室

ニュートン著「プリンキピア」第2版(1713年出版)
ホームカミングデイ特別展示

[関連特別講演会]

10月17日(土)
時 間：13:00～14:00
講演題目：「ソフトマターの理論物理学」
講 演 者：宮崎州正(理学研究科教授)
内 容：液体とも固体ともつかぬ物質「ソフトマター(柔らかい物質)」に
ついて語る
参 加 費：無料



10月18日(日)
場 所：中区役所ホール
(名古屋市中区)
時 間：13:30～15:30
対 象：一般
参 加 費：無料

[問い合わせ先]
医学部附属病院
先端医療・臨床研究支援センター
052-744-1956

第10回名大病院市民公開講座

講 演 者：後藤百万(医学系研究科教授)、
川上 肇(医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター特任教授)、
藤原忠美(同特任教授)

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月20日(火)

場 所：中央図書館 2階
ディスカバリスクエア
時 間：18:00~19:30
対 象：一般
参 加 費：無料

附属図書館友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」第37回

講演題目：「モノのふみをよむー絵図と遺構で読む高木家陣屋ー」
講 演 者：溝口正人氏（名古屋市立大学教授）

[問い合わせ先]

附属図書館情報管理課 052-789-3666

10月21日(水)

場 所：減災館 1階減災ホール
時 間：13:00~14:00
対 象：一般
参 加 費：無料

第13回減災まなび舎

講演題目：「火災から身を守るには」
講 演 者：廣井 悠（減災連携研究センター准教授）



[問い合わせ先]

災害対策室 052-788-6040

10月22日(木)

場 所：減災館 1階減災ホール
時 間：18:00~19:30
定 員：100名
対 象：一般
参 加 費：無料

第114回防災アカデミー

講 演 者：堀 宗朗氏（東京大学教授）

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

10月24日(土)

場 所：東郷フィールド（附属農場）
農業館（愛知郡東郷町）
時 間：14:00~15:30
参 加 費：無料

2015年度第2回農場講演会

講演題目：「いつも食べてるお米の話」
講 演 者：西内俊策（生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター助教）
内 容：お米の品種や味といった身近な話から、育種や日本のイネの今後といった難しい話について、幅広い分野から少しずつ話題を取り上げる

[問い合わせ先]

生命農学研究科附属
フィールド科学教育研究センター
東郷フィールド（附属農場）事務室
0561-37-0200

10月24日(土)、25日(日)

場 所：博物館（10/24）、
南知多の海岸（10/25）
時 間：13:30~16:00（10/24）、
9:00~16:00（10/25）
定 員：30名
対 象：小学3年生以上、一般
（小学生は保護者同伴）
参 加 費：2,000円

第47回地球教室ーフィールドセミナーー

「博物館の収蔵庫と野外で 深海の地層と化石を調べよう！」

内 容：深海でできる地層の特徴や化石の観察方法を学び実践する



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月24日(土)、11月21日(土)

場 所：多元数理科学棟 5階大講義室
(509室)
時 間：9:30~17:00
定 員：100名
対 象：高校生、高校教員、一般
参 加 費：無料

多元数理科学研究科 2015年度数学公開講座

講演題目：「計算と論理」
講 演 者：ジャック・ガリグ (多元数理科学研究科准教授)
講演題目：「素粒子論と現代数学」
講 演 者：濱中真志 (多元数理科学研究科助教)

[問い合わせ先]

多元数理科学研究科 052-789-5994

10月27日(火)

場 所：情報基盤センター 4階会議室
時 間：13:00~14:30
定 員：40名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成27年度第7回情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目：「UX Design Approach の紹介」
講 演 者：田中拓也氏 (株式会社リクルートマーケティングパートナーズ)
内 容：実際に UX アプローチを軸として行ったケーススタディとともに
要件設計をどのように行ってきたのかを紹介

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

10月29日(木)

場 所：野依記念学術交流会館
時 間：9:30~17:00
定 員：150名
参 加 費：無料

第29回国際経済政策研究センター・キタン

**国際学術シンポジウム／
名古屋大学、ジェトロ・アジア経済研究所共催
国際シンポジウム**

テ ー マ：「中国・日本と激変するアジア経済」
内 容：講演、パネル討論 (使用言語は英語、日本語、中国で同時通訳あり)

[問い合わせ先]

経済学研究科
附属国際経済政策研究センター
052-789-4945

11月3日(火)

場 所：IB 電子情報館 2階大講義室
時 間：13:30~16:00
定 員：300名
対 象：一般
参 加 費：無料

宇宙地球環境研究所 設立記念公開講演会

テ ー マ：「私たちのくらしと宇宙地球環境」
講演題目：「オーロラを通して診る宇宙地球環境」
講 演 者：藤井良一 (宇宙地球環境研究所教授)
講演題目：「過去2千年間の気候変動の歴史から学べること」
講 演 者：中塚 武氏 (総合地球環境学研究所教授)
講演題目：「気候変動リスクと人類の選択」
講 演 者：江守正多氏 (国立環境研究所地球環境研究センター
気候変動リスク評価研究室長)
内 容：講演、パネルディスカッション

[問い合わせ先]

研究所事務部総務課 052-747-6303



11月4日(水)、5日(木)

場 所：野依記念学術交流会館 2階
カンファレンスホール
時 間：13:00~15:00 (11/4)、
9:00~17:00 (11/5)
対 象：研究者
定 員：200名
参 加 費：無料

宇宙地球環境研究所 設立記念シンポジウム

**「宇宙・太陽・地球環境の結びつきと過去・現在・未来
(Evolution of the Space-Sun-Earth Environmental System
in Space and Time)」**

内 容：国内外の招待講演者による講演および一般講演者による講演
(使用言語は英語)

[問い合わせ先]

太陽地球環境研究所
http://st_4a.stelab.nagoya-u.ac.jp/ISEE/

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月7日(土)～3月12日(土)

(期間中の土曜日 全8回)

場 所：経済学部2階
カンファレンスホール

時 間：10:00～12:00

対 象：中学生以上、一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

経済学研究科

エクステンション・サービス

ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学オープンカレッジ

「自由奔放！サイエンスー知識・博学への挑戦」

内 容：大学の研究室で行われている最新の研究やその熱意を
できるだけわかりやすく伝える

11月10日(火)～1月23日(土)

場 所：博物館2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日、12月27日～1月4日

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

第31回博物館企画展「北の縄文人」

11月13日(金)

場 所：全学教育北棟4階
多目的講義室(406室)

時 間：14:45～16:15

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科 教授 杉村 泰

sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

平成27年度国際言語文化研究科教育研究プロジェクト

日本語教育学講座講演会

講演題目：「日本人の言語行動におけるポライトネス

ー効率的な日本語ポライトネス指導を目指してー」

講 演 者：松村瑞子氏(九州大学教授)

11月14日(土)

場 所：医学部附属病院中央診療棟
3階講堂

時 間：13:30～16:15

定 員：200名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

医学部・医学系研究科総務課

052-744-2040

平成27年度鶴舞公開講座

「家族のきずなで健やかに生きる

ー子・親・祖父母で考える家庭内の医療ー」

講演題目：「うんちの管理と在宅ケア」

講 演 者：前川厚子(医学系研究科教授)

講演題目：「発達障害をもった子どもとの関わり方ー特に家族を中心に」

講 演 者：岡田 俊(医学部附属病院准教授)

11月21日(土)

場 所：理学南館1階坂田・平田ホール

時 間：13:00～16:35

定 員：300名

対 象：学生、一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

理学部・理学研究科事務部 052-747-6577

素粒子宇宙起源研究機構

一般相対論誕生100年記念市民講演会

講演題目：「一般相対論の誕生」

講 演 者：佐藤文隆氏(京都大学名誉教授)

講演題目：「アインシュタイン最大の成功？」

講 演 者：杉山 直(理学研究科教授)

講演題目：「天文観測に見られる相対論効果」

講 演 者：國枝秀世(本学理事)

講演題目：「重力波の観測に挑むーアインシュタイン100年の宿題ー」

講 演 者：梶田隆章氏(東京大学教授)

内 容：時空理論とその周辺の研究の歴史、展開、そして最前線に触れる

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月24日(火)

場 所：ES 総合館 1 階会議室
時 間：14:00～16:00
対 象：本学教職員
定 員：70名

平成27年度コンベンション開催支援セミナー

講 演 者：藤巻 朗（本学副理事）

[問い合わせ先]

研究協力部研究支援課 052-789-2039

12月8日(火)

【講演会】

場 所：理学南館 1 階坂田・平田ホール
時 間：16:00～17:30
定 員：250名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成27年度名古屋大学全学同窓会・夕食会

講演題目：「「高速道路 四方山（よもやま）話
～名神高速道路が全線開通して50年 高速道路の過去・現在・未来～」
講 演 者：宮池克人（全学同窓会副会長、
中日本高速道路株式会社 代表取締役社長 CEO、中部電力株式会社 顧問）

【夕食会】

場 所：グリーンサロン東山
レストラン花の木
時 間：18:00～20:00
定 員：50名
対 象：同窓会会員、学生会会員本人
参 加 費：5,000円

[問い合わせ先]

名古屋大学全学同窓会事務局
052-783-1920
nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックス No.269 平成27年10月15日発行

編集・発行／名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

名阪戦（漕艇部）
(平成27年6月7日)



162 東山キャンパスが「千種区不老町」になった日

東山キャンパスの所在地は、一般に「名古屋市千種区不老町」と表記され、キャンパス内であれば本部もどの部局も同じ地名を使っており、郵便物等もそれで届きます。ただ、登記簿上では、千種区不老町をはじめ、同区仁座町、萩岡町、東山元町、園山町、四谷通、幸川町、宮東町、八雲町、高峯町、山手通という11の地名にまたがっています（図1）。

1939(昭和14)年に名古屋帝国大学が創立された当初、東山地区は千種区不老町および同区田代町に所在するとされてきました。戦後、1947年の「名古屋帝国大学概況」(事務局作成)では、東山地区は本部もどの部局も所在地は千種区田代町と表記されています。ただ、すでに1945年9月20日に広大な田代町は分割されてなくなっており、表記が混乱しているようです。

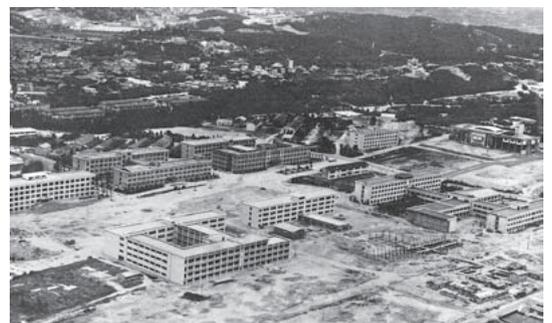
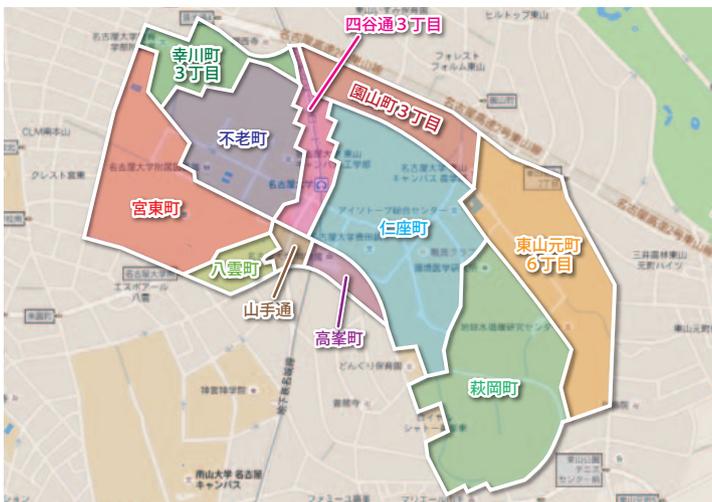
これが1948年になると、「名古屋大学概況」と名大の新制大学設置認可申請書で東山地区の所在地表記が不老町に

統一されており、以後これが踏襲されています。ここで東山キャンパスは不老町になったといえそうです。

しかし、1954年から名大が東山キャンパスを追加取得した際、その中に昭和区の区域が含まれていたことが問題になりました。現在の文系地区および古川記念館(博物館)の一带です。たとえ所在地名を千種区不老町に統一しても、行政上はそうはいかず、区役所、警察署、消防署、郵便局等は千種と昭和の両方の所管となり、これは大学の管理運営において非常に不便でした。

そこで名大は1963年に名古屋市に区域の変更を申請し、翌年3月に認められました。これにより、昭和区宮東町、八雲町、山手通、高峯町の東山キャンパスの部分だけが千種区に編入されたのです。

実はこの時名大は、同時に東山キャンパス内の町名を不老町に統一してほしいと要望しましたが、これは受け入れられなかったようです。



1	3
2	4

- 現在の東山キャンパス内の町名とその境界。宮東町、八雲町、山手通、高峯町は、町の全区域がキャンパス内にあるが、隣接して昭和区にも同じ町名がある。そのほかに全区域がキャンパス内にあるのは不老町のみ。
©2015Google - 地図データ2015 ZENRIN
- 1947年の東山キャンパス航空写真(国土地理院所蔵)。1945年9月19日まで、現在の幸川町、四谷通、園山町、東山元町のあたりは田代町であった。
- 1963年6月頃の東山キャンパス。文系地区にはすでに文学部、法学部、経済学部、教養部の校舎が建ち、教育学部も建設が始まっており、昭和区の区域に建物が急速に増えていた。翌64年には古川図書館(現在の古川記念館)が完成している。
- 東山キャンパスから南へ700mほど離れた、八事第二日赤病院の近くにある国際嚶鳴館。ここも高峯町だが、千種区ではなく昭和区高峯町である。

